

COUNTRY RISK WEEKLY BULLETIN

05 Aug, 2009

IN THE HEADLINES



ウクライナ

先週、IMFは昨年11月に合意された総額USD165億ドルに上るスタンバイ取極の2回目のレビューを終了し、USD33億ドルの第3トランシェを実行した。経常収支は急速に調整されてきており、フリブナは2008年の最後の4ヶ月でUSDに対して60%下落した後、2009年には安定している。しかし、景気後退は予測よりも深刻なものである。実質GDPは第1四半期に前年比20.3%下落し、第2四半期の実績を示す早期の指標は、工業生産が第1四半期に前年比32%下落した後第2四半期に30%下落するなど、回復の兆しを殆ど見せていない。加えて、小売取引の落ち込みは第1四半期の前年比12%下落から、4-5月にはさらに加速してきている。



ギニア・ビザウ

与党ギニア・カーボベルデ独立アフリカ党(PAIGC)のマラム・バカイ・サニャ候補は、7月末の大統領選の決選投票で63%の得票で勝利した。敗退した主要野党社会改革党(PRS)のクンバ・ヤラ氏はこれを受け入れた。この結果は、軍事的なクーデターの歴史があり、今年の3月には前職のビエイラ大統領が兵士によって暗殺されるというこの国で政治的な安定性を改善する機会を与えるだろう。しかしサニャ氏は軍部の支持を得る必要があり、政府は、ドナーの支援の再開につなげるために更に平和的な政治環境を作る必要がある。



イスラエル

リーバマン外務大臣は、賄賂・マネーロンダリング・司法妨害に関する汚職疑惑で告発されたなら、辞任すると宣言した。オルメート前首相は似たような状況下で辞任しており、政治家による背任行為は広範囲にわたるものまで認められないものであると示唆している。リーバマン氏は連立政権で2番目に大きく、議会で3番目に大きい右派の『イスラエル我が家党』(Yisrael Beiteinu)を主導している。よって、ネタニヤフ首相がイランやパレスチナ問題に絡んで米国と複雑化している関係を改善することに忙殺される中、短期的には政治・ガバナンス面での不確実性が予測されよう。



ブルガリア

欧州委員会の直近の中間報告書は、同国の2007年のEU加盟に際して要請があった、法務改革および汚職と組織的犯罪の抑制に関していくらかの進捗があったと認識しており、罰則措置を取ることは推奨していない。ボリスフ首相の「欧州発展のためのブルガリア市民(党)(GERB)」は汚職と犯罪の撲滅を掲げて最近の選挙に勝利したものの、議会の過半数には達しなかったため、首相は、妥協に煩わされない、少数派政府を選択した。しかし、他の政党に依拠せざるを得ないことが、改革を遅らせるかもしれない。

ALSO IMPORTANT...



ニジェール

タンジャ大統領は今週の国民投票によって、その任期を延ばそうとしている。同投票の結果次第では、大統領の最大任期を規定する憲法の改正も可能となりうる。タンジャ氏は5年任期の2期目を終了し、今年12月に退任する予定であった。議会と憲法裁判所が閉鎖され大統領が法令によって統治し、治安情勢が緊迫している中、タンジャ氏はその非民主主義的な行動に対する国内および国際的な非難を無視してきた。投票結果は同氏の望む方向になるだろう。しかし、EUはいくつかの予算支援型の援助を凍結し、その他の援助も保留される見込みであるため、ビジネスおよび貿易環境の悪化が予想されるだろう。



イエメン

最近の南部での暴動、分離要求は、北部の軍部反発とアルカイダのテロの問題と共に同国の問題に加えられている。これら勢力の組み合わせはサーレハ大統領の権限と治安部隊にとって大きな難問となっている。同国は、1990年に南北イエメンが統合し、多くの忠誠が中央(首都サナア)ではなく地方の部族のレベルに留まっている状態で建国されたばかりである。引き続き、不安定な状態が続き、それが地方へも影響する状態(北部の国境線はサウジアラビアとの争点になっている)となるだろう。

COUNTRY REVIEW SUMMARIES



エジプト

ムバラク大統領は1981年から権力の座にあり、健康状態に問題がなければ国家元首に留まると見られ、よって政策の一貫性は保たれるだろう。年間実質GDP成長率は2005-08においては平均6.4%だったが、現状の世界経済環境の弱さは主要な経済の牽引車に影響を与えており(スエズ運河の使用料、観光業、出稼ぎ労働者の送金および原油・ガス収入)、よってGDP成長率は3.5%に留まるだろう。赤字は財政収支には大きく、経常収支には小さく、両収支共に計上されるだろうが、外貨準備高(USD300億ドル超)は依然として堅く、輸入の5-6か月分をカバーする水準である。また、経済自由化にかかる改革がビジネス・貿易環境を改善している。



カザフスタン

世界的な金融危機の最中、近年の過剰な信用増加は2007年下半年から銀行の流動性問題の原因となっている。方々、三大銀行が外貨建て債務の支払いに対してデフォルトを起こし、現在債務のリストラを要請している。現状急激に下落している信用供与、劇的に低下している原油価格および2008年半ばより弱い対外環境もあり、2009年のGDPは2%縮小することになるだろう。対外債務は高くGDPの85%あり、2009年の返済高は現状の外貨準備高の2倍の水準となっている。よって、カントリーリスクは高まっており、多数の倒産が予想されている。

IN BRIEF

イラン

アフマディネジャド大統領は更なる(最後の)5年任期の宣誓を行った。

Edited by Andrew Atkinson

The content of the report (which is subject to change without notice) reflects only our opinion, which is based on information received by us. Accordingly no warranty, representation or other assurance is given as to the accuracy or completeness of the report. The report is for general information and is not intended to address any requirements you may have, for which you must obtain independent advice. The report does not constitute any form of advice, recommendation or arrangement by Euler Hermes UK plc or by the Euler Hermes Group of Companies and must not be relied upon in the making of any decision, agreement or arrangement. © Euler Hermes UK plc 2008.